

原水爆禁止二〇〇八年世界大会・国際会議が
四日、採択した「国際会議宣言」は次のとおり
です。

広島・長崎の被爆から
六十三年。あの悲劇を繰
り返させてはならないと
いう被爆者の叫びは人々
の心をよぎらせ、核兵器廃
絶の声は世界の大勢とな
っている。二十一世紀
を、核兵器の脅威から解
放された新しい平和な時
代としよう、との決意が
広がっている。われわれ
はこの実現のため連帯し
行動することを、世界の
すべての人々によびかけ
る。

核兵器は人類の生存と
世界平和を脅かし続けて
いる。いまなお核保有国
は二万六千発の核兵器を
貯蔵、配備している。そ
して数千発が即時発射態
勢におかれている。とり
わけ米国は、「テロと核
拡散」が「新たな脅威」
であるとして、核兵器廃
絶を拒否するばかりか、
先制軍事攻撃と核兵器使
用計画が一体になった危
険な戦略をすすめる、新型
核兵器の開発、先制攻撃
を補完する「ミサイル防
衛」システムの開発・配

原水爆禁止二〇〇八年世界大会 国際会議宣言

(全文)

めに、核保有国自身が核
兵器廃絶にむけ行動すべ
きたという声があがって
いる。

全世界の圧倒的な人び
とが核兵器のない世界を
望み、非核兵器地帯は東
南アジア、中央アジア、
モンゴル、アフリカ、中
南米、南太平洋など全地
球に広がっている。大多
数の国が「非核兵器国」
として核不拡散条約に加
わり、みずから核兵器
の開発・保有を放棄する

備などを続けている。こ
れは、拡散問題の解決を
妨げる重大な要因ともな
っている。

拡散条約(NPT)再検
討会議で「自国の核兵器
の完全廃絶」を「明確な
約束」として受け入れた
五つの核保有国は、この
約束を誠実に実行しなけ
ればならない。二〇一〇
年春のNPT再検討会議
にむかって、「核兵器完
全廃絶」の約束をはじめ
め、包括的核実験禁止条
約(CTBT)の発効、
核分裂物質製造禁止条約
(FMCT)の交渉開始、
中東非核地帯の実現な
要な機会である。われわ
れは、NPT再検討会議
にいたる二十九日間、
「核兵器のない世界」を
共通の目標とする全世界
的な行動キャンペーンを
提唱する。核兵器廃絶を
求める署名運動を軸に、
多彩で創意あふれるとり
くみによって世界をつな
ぐ、国際共同行動をくり
ひろげよう。

また、この行動の重要
な一環として、広島・長
崎の被爆者、世界の核被
る諸運動と連帯し、「核
兵器のない平和で公正な
世界」のために、力をあ
わせるようよびかける。

状況がつづくイラクやア
フガニスタンの現状は、
拡散問題の平和的解決、
核兵器の廃絶、平和の国
際秩序確立こそが進むべ
き道であることを示して
いる。

いまこそ核兵器全面禁
止・廃絶へ、確かな一歩
を踏み出すときである。
そのために求められるこ
とは、世界政治、とりわ
け核保有国の決断であ
り、諸国民の連帯した行
動である。

われわれは世界のすべ
ての政府に、核兵器全面
禁止・廃絶条約の協議開
始を国連総会で決議する
よう、強く提唱する。

二〇一〇年のNPT再
検討会議は、核兵器廃絶
への展望を切りひろく重
要な機会である。われわ
れは、NPT再検討会議
にいたる二十九日間、
「核兵器のない世界」を
共通の目標とする全世界
的な行動キャンペーンを
提唱する。核兵器廃絶を
求める署名運動を軸に、
多彩で創意あふれるとり
くみによって世界をつな
ぐ、国際共同行動をくり
ひろげよう。

二〇一〇年のNPT再
検討会議は、核兵器廃絶
への展望を切りひろく重

日本は、人類史上唯
一、核戦争の惨禍を体験
する憲法九条と非核三原則
の国是を持つ国として、
すみやかな核兵器の廃絶
のためにイニシアチブを
発揮することが強く求め
られている。しかし実際
には「核の傘」の名のも
とにアメリカの核戦略に
深く組みこまれ、太平
洋、インド洋、中東へと
軍事行動をくり広げるア
メリカの艦船などの出撃
拠点とされ、さらに原子
力空母の横須賀配備など
が進められている。

二〇一〇年のNPT再
検討会議は、核兵器廃絶
への展望を切りひろく重

われわれは、このよう
な危険な動きに反対し、
憲法をまもり、非核平和
の日本のためにたたかう
人びとに、強い連帯を表
明する。

人類の未来は諸国民の
連帯した行動によってこ
そ切りひろかれる。被爆
者とともに、そして明日
を担う若い世代とともに
に、いまこそ行動に立ち
上がる。